

# 東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター～VOL. 13～ 平成28年8月発行

【発行】

岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ

岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7592

## 釜石市社協が弁護士を講師に勉強会を開催

釜石市社会福祉協議会は、釜石ひまわり基金法律事務所加藤静香弁護士を講師に勉強会を開催しています。参加者は、市社協の生活支援相談員、地域コミュニティ支援職員、くらし・仕事相談所の相談員、日常生活自立支援事業担当職員等の他、平成27年10月からは大槌町社協の職員も加わりました。勉強会では、参加者が持ち寄った事例に対し、加藤弁護士が法的な支援策をアドバイスする他、加藤弁護士が実際に対応した事例を元に質疑応答を行っています。これまでに、「架空請求等日常生活で問題になりそうな契約について」、「都市計画事業の換地」、「個人版私的整理ガイドライン」、「家族間トラブル」、「相続」、「相続放棄」、「遺言」、「成年後見制度の概要・実情」等について勉強してきました。参加者が持ち寄る事例や相談には、ボランティア等支援者の気づきも含まれており、相談ケースがあれば支援団体も随時参加できます。

生活支援相談員からは、訪問支援をする際、「自分はどこまで支援が可能か迷うことが多々あり、知識を増やしていくことは重要と感じている」、「その場で判断が必要な時に、勉強会で得た知識はとても役に立つ」等の声が挙げられています。

この勉強会は、市社協が主催する被災者支援団体連絡会議で、参加した遠野ひまわり基金法律事務所の上山直也弁護士がボランティア等支援者に対し法的な支援策や解決策をレクチャーしたことがきっかけで平成27年7月から始まり、現在の形に深化しました。



## 生活支援相談員が支え合いマップ・インストラクター養成講座を受講

岩手県社会福祉協議会は、平成28年6月20日～21日及び7月21日～22日に釜石市で「支え合いマップ・インストラクター養成講座」を開催しました。講師は、住民流福祉総合研究所代表の木原孝久氏。市町村社協職員、在宅介護支援センター相談員及び行政職員等30名が受講しました。受講者のうち、大船渡市、久慈市、遠野市、陸前高田市、釜石市、大槌町及び山田町社協から19名の生活支援相談員が受講し、被災者支援及び地域支援を担う生活支援相談員の関心の高さが窺われました。養成講座では、釜石市内6地区の住民22名が協力しました。受講者は住民への聴取を基に課題と解決策を整理しながらマップづくりを行いました。

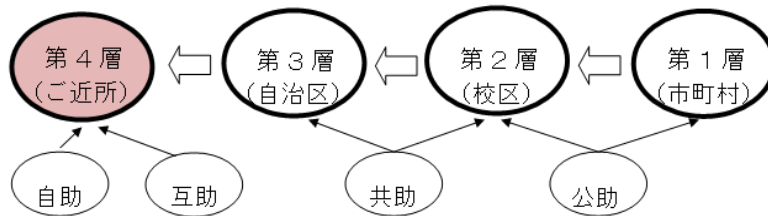
この養成講座は、平成25年度から4年連続で、釜石市内で開催しています。これまで、マップ作成の取組は、仮設住宅団地や災害公営住宅団地でも行われ、新たなコミュニティづくりとして被災者支援にもつながっています。

なお、支え合いマップは、作ること自体が目的ではなく、マップから見えた地域課題に対し具体的な解決策を見出し、地域の支え合いを活かした住民主体の活動を支援することが狙いです。

## 支え合いマップとは・・・

支え合いマップは、住民相互の支え合いを線で結ぶことにより、地域のつながりを確認できる地図です。およそ50世帯（多くて80世帯）の地図に、住民同士の助け合いや地域資源の実態を書き込んで可視化し、地域の課題を明らかにしながら、住民の支え合いを活かした解決策を探ります。

## 地域にある4つの層



- 共助は住民による福祉活動。
- 互助（助け合い）は「ご近所」のみで行われる。
- 要介護者は「ご近所」に住んでいる。

出典：養成講座資料 住民流福祉総合研究所「ご近所発の地域福祉」より

## 木原孝久先生の講義のポイント

- 当事者はご近所で生活しており、その範囲内からは出ようとしない。ならば、ご近所内で助け合うことを考える必要がある。
- 人々は、ご近所の範囲内で、外部から見えないところで助け合っている。これが、“住民流”。さりげなく行っているものだから、外部には見えてこないのは当然。
- 当事者は何を問題として感じ、どうなりたいのか。支え合いマップ作りから、ご近所の助け合いの実態を明らかにし、当事者が人間らしく（その人らしく）生きていける方法を見出していく。
- 当事者自身が問題として感じていることが全てではなく、本人が気づいていなかったり、諦めたりしている場合もある。当事者のこともわかり、第三者の目も持ち合わせている世話焼きさんに聴取して作成した支え合いマップを活用し、本人に“豊かな生活（世界）”とはどのようなものかを見せて気づかせてあげることも必要。
- 地域包括ケアシステムの実現においては、要介護者を仲間に入れることが大事。要介護者になったらサロンや老人クラブから排除してしまうのでは、地域包括ケアシステムは構築されない。

## 支え合いマップづくりで見えてくるもの

- 自分が住んでいる地域の中で知らなかった助け合い、支え合いの姿が可視化できる。
- 地域の課題が見えてくる。（自分だけの困りごとだと思っていたことが、実は地域みんなの困りごとだった）
- 住民同士の関係を理解することで、課題の解決策を立てやすくなる。

### ★Facebookの運用を開始します！★

本会では、平成28年8月末からFacebook「岩手県社会福祉協議会—災害関連情報ページ」の運用を開始します。当面は、生活支援相談員の活動等、東日本大震災の被災者支援の取組や被災市町村の復興状況を発信していきます。